

NPO 法人住まいのホームドクター／設計者の会
460-0006 名古屋市中区葵 1-27-32 カイフビル 7階

HD ニュース

No.38
2016.6.15

今後の予定／於：事務局会議室

- 6月16日(木)18:30～ 木造技術研究会
- 6月21日(火)18:00～ 相談委員会
- 6月21日(火)19:00～ 研修会
- 7月7日(木)18:30～ 三役会
- 7月19日(木)18:30～ マンション・ビル大規模修繕研究会
- 7月21日(火)18:30～ 木造技術研究会

名古屋城天守閣・木造復元化について

理事長 滝井幹夫

オリンピックまでに木造復元化を進めようとする河村市長と、慎重な態度の市議会多数派、市民アンケートでは「オリンピックまでの木造再建」は最も少数の21.5%で、市民の意見は大きく割れています。

名古屋市外の会員には直接の関係はありませんし、会員の意見も様々だと思いますが、深く建築に関わる事からこれを機会に賛否の断定を避け、各種資料を参照し経過から辿ってみました。

以前から『特別史跡名古屋城全体整備計画』があります。この中には「戦災等で焼失した建造物、二の丸庭園、その他城の歴史的特色を示す遺構の復元整備を行い、城の歴史的整備を行い、城の歴史的景観を再生させていく」と書かれています。

消失した本丸御殿が木造復元工事中で、多門や東北隅櫓の復元を行い、「本丸の輪郭を明確にし、ランドマークとしての城の再生を狙う」と書かれています。が、「天守閣の木造復元化」はどこにもありません。

2011年2月の出直し市長選で河村市長はマニ

フェストに「天守閣木造復元」を掲げ当選してから本格的に始動しました。

一方、出直し市長選前の平成22年9月に「構造体劣化調査」が行われ、圧縮強度が設計基準強度を上回り、中性化・鉄筋腐食度の調査結果から、耐用年数を約40年と公表しています。

更に、平成23年2月に耐震補強案に対する「耐震診断」が行われ、耐震指標「I_s値」は0.75を上回り、十分な耐震性能を確保できる。と判断されていました。

大地震への備えとして、公共・民間を問わず、今後も使用する建築物の耐震補強が急がれている今日、何故耐震補強や劣化対策を実施しなかったのが疑問視されます。

耐震補強・劣化対策を実施した上で、いずれは迎える耐用年数を前に、十分な市民の合意を経て、多少は早目であったとしても「木造復元」「耐火建築で再建」のどちらかを選ぶなら事は簡単です。

何事も拙速は慎むべきと改めて思います。

第4回 HD 研修旅行記(3) 松本城

中京法律事務所 弁護士 今泉麻衣子

今回、NPO法人住まいのホームドクター／設計者の会の旅行に初めて参加させていただきました。私が個人的に最も楽しみにしていたのが松本城です。

松本城は、現存天守のある12城のうちの1つで、国宝5城のうちの1つです。「五重六階」の天守は日本に2つしかなく、松本城が、日本最古だそうです(ちなみに、もう一つは姫路城です。)。また、戦国時代に造られた天守と、その後の平和な時代に造られた櫓とが複合している天守群は、日本にここだけという大変珍しいものだそうです。

天守の周りには、豊かな水をたたえた水堀があり、



本紙バックナンバーは当会のホームページ<http://www.sumaidoctor.or.jp>からご覧いただけます

迫力のある天守が一層引き立っていました。たくさんの建物が複合した天守なので、進んでいくごとに城が表情を変えていくのがまた素敵で、見惚れてしまいます。しかも、とてもよいお天気で、かなたにはアルプスの山々まで見渡すことができました。

しかし・・・訪れたのは月曜日でしたが、天守の中は大変な混雑で、最上階まで登るには30分待ちとのこと。残念ながら、登城を途中で断念せざるを得ず、天守のつくりなどを細部まで堪能できなかったことが心残りです。ですが、非常に急な階段など、

復元した天守にはない“城らしさ”も、松本城の魅力だと感じましたし、今から400年以上も前に、軟弱な地盤の上に1000トンもの重さのある大天守を築造するため、先人たちが様々な工夫をしたことなどを、ガイドさん（愛知県に住んでいたこともあるという陽気な方でした。）に解説いただき、その工夫があってこそ今日に至るまで堂々としたその姿を残していることなどを思うと、大変感慨深いものがありました。

第4回 HD 研修旅行記(4) 茶室曙月庵・旧小笠原書院、小笠原資料館 谷川照夫

去る4月17日、4月18日の研修旅行は、半年延びて実現したこともあって私にとって、非常に楽しいものになりました。仲間と行く旅行は格別です。2日目の4月18日松本城などを巡りその後、茶室曙月庵、旧小笠原書院、小笠原資料館を訪問しました。

茶室曙月庵

長野県喬木村に位置する茶室曙月庵は、元々阿島陣屋の一部でしたが、この茶室だけが現在まで残ったものです。茶室としては、2階建と非常に珍しい造



りになっています。そう云われれば、2階建の茶室と云うものは今まで見たことがありません。建物は、入母屋造の2階建一部平屋建て。棟札から嘉永元年九月(1848年)に造営された書院造の洒落た茶室です。

私たちが立ち寄ったのは、月曜日で休館日でしたが、外部をうろろしていると、偶然管理者の方が現れ、建物内部を見せていただくことができました。誠に運がよかったと思います。

旧小笠原書院、小笠原資料館

さほど広くない、ゆるやかな石段を登っていくと、正面に門が見えてきます。この門を持つ旧小笠原書院は、伊豆木小笠原家の居館の一部で、昭和27年3月29日重要文化財に指定されました。昭和45年の解体修理で、棟札により寛永初年頃(1624年)初代小笠原長巨(ながなお)により建てられたことがわかっています。

右手には向かい合うように、この地域には場違いな、うねりを持った巨大な箱が現れます。小笠原資料館です。月曜日が休館日のため内部は見ることはできませんでした。残念です。妹島和世さんの設計の鉄骨造のこの建造物は1999年に完成したそうです。

写真を撮りながらの帰り道、道路脇の農家の無人直売所で、近くで取れたタケノコとわらびが、100円と書かれて置いてありました。それを眺めながら、やはりこの地域にはそぐわないと感じました。

でも印象深い、忘れることのできない建造物の一つとなりそうです。



